

この度、ストックホルム大学（スウェーデン）の Lars-Goran Nilsson 教授とトゥルガウ教育大学（スイス）の Vinzenz Morger 教授に講演をお願いすることとなりました。

Nilsson 教授は、2000 年にストックホルムで開催された第 27 回国際心理学会の大会委員長でしたので、ご存知の方も多いかもかもしれません。同教授の講演は、スウェーデンで行われた大規模な縦断的プロジェクトに基づくものです。記憶と健康と加齢に関する成人の各年代(計 約 1000 人)を対象として得られたデータによる新しい知見をご報告いただきます。

Morger 教授は、現在、学習院大学に客員研究員として滞在しておられる記憶研究者です。言葉や数字などを実験材料にしたカテゴリー判断課題において、どのようなカテゴリー事例をどのような順序で提示するかにより、判断基準や判断時間が影響を受けるという現象は、カテゴリー事例のリストコンテクスト効果として知られていますが、この効果についての研究結果をご報告いただき、特に、カテゴリー理論や潜在記憶の視点から考察していただきます。

なお、講演と質疑応答、討論は英語で行われます。参加費無料、事前登録不要です。どうぞお気軽にご参加ください。

日時：2011 年 3 月 10 日（木）15:00～17:30

場所：京都大学教育学研究科 総合研究 2 号館 1 階 第一講義室

<http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/access.htm>

司会：太田信夫（学習院大学）

講演者 1：Lars-Goran Nilsson（Stockholm University, Sweden）

講演題目 1：New finding in the Betula Study

講演者 2：Vinzenz Morger（Thurgau University of Teacher Education, Switzerland）

講演題目 2：List context effects in categorizing fussy and well-defined concepts

共催：京都大学グローバル COE プログラム

「心が活きる教育のための国際的拠点」 ユニット A

学習院大学

世話人：齊藤 智（京都大学大学院教育学研究科）